

君死にたもうことなかれ

作詩 与謝野晶子
作曲 吉田隆子

0/5

□□□□□

1.

あおとうとよ 君を泣く
君死にたもうことなかれ
末に生まれし君なれば
親のなさはまさりしも
親は刃やいばをにぎりせて
人を殺せとおしえしや
人を殺して死ねよとて
二十四までをそだてしや

2.

堺(さかい)の街のあきびとの
旧家をほこるあるじにて
親の名を継ぐ君なれば
君死にたもうことなかれ
旅順(りょじゅん)の
城はほろぶとも
ほろびずとも 何事ぞ
君は知らじな あきびとの
家のおきてに無かりけり

3.

君死にたもうことなかれ
すめらみことは 戦いに
おおみずからはいでまさね
かたみに人の血を流し
獣(けもの)の道に死ねよとは
死ぬるを人のほまれとは
大みこころの深ければ
もとよりいかで思(おも)はされぬ

4.

あおとうとよ 戦いに
君死にたもうことなかれ
すぎにし秋を父ぎみに
おくれたまえる母ぎみは
なげきの中に いたましく
わが子を召され 家を守(も)り
安しと聞ける

大御代(おおみよ)も

母のしら髪(が)はまさりぬる

5.

暖簾(のれん)のかげに伏して泣く
あえかにわかき新妻(にいづま)を
君(きみ)にするや 思(おも)えるや
十月(とつき)も添(そ)わで
わかれたる
少女(おとめ)ごころを思いみよ
この世ひとりの君ならで
あまた誰(た)をたのむべき
君死にたもうことなかれ

君死にたもうことなかれ

作詩 与謝野晶子
作曲 吉田隆子

1.

□□□□■

ああおとうとよ 君を泣く
君死にたもうことなかれ
末に生まれし君なれば
親のなさはまさりしも
親は刃^(やいば)をにぎらせて
人を殺せとおしえしや
人を殺して死ねよとて
二十四までをそだてしや

君死にたもうことなかれ

作詩 与謝野晶子
作曲 吉田隆子

2.

□□□■

堺(さかい)の街のあきびとの
旧家をほこるあるじにて
親の名を継ぐ君なれば
君死にたもうことなかれ
旅順(りょじゅん)の城はほろぶとも
ほろびずとても 何事ぞ
君は知らじな あきびとの
家のおきてに無かりけり

君死にたもうことなかれ

作詩 与謝野晶子
作曲 吉田隆子

3.

□□■ ■■

君死にたもうことなかれ
すめらみことは 戦いに
おおみずからは出でまさね
かたみに人の血を流し
獣^(けもの)の道に死ねよとは
死ぬるを人のほまれとは
大みこころの深ければ
もとよりいかで思^(おも)われぬ

君死にたもうことなかれ

作詩 与謝野晶子
作曲 吉田隆子

4.

ああおとうとよ 戦いに
君死にたもうことなかれ
すぎにし秋を父ぎみに
おくれたまえる母ぎみは
なげきの中に いたましく
わが子を召され 家を守_(も)り
安しと聞ける大御代_(おおみよ)も
母のしら髪_(が)はまさりぬる

君死にたもうことなかれ

作詩 与謝野晶子
作曲 吉田隆子

5.

暖簾(のれん)のかげに伏して泣く
あえかにわかき新妻(にいづま)を
君わするるや 思えるや
十月(とつき)も添(そ)わでわかれたる
少女(おとめ)ごころを思いみよ
この世ひとりの君ならで
ああまた誰をたのむべき
君死にたもうことなかれ